

## 平成 26 年度 女性と市長との懇談会（1 回目）

懇談テーマ：暮らしやすいまちってどんなまちですか？

平成 26 年 12 月 15 日(月)13：30～15:30

福岡総合事務所 2 階 世代交流室

出席者 女性 19 人 12 地区

市長・企画部長・定住推進部長

### 市長あいさつ

中津川市では市政懇談会を開催していますが、出席される皆さんが毎年固定化しています。先日は新成人と懇談会をさせていただきました。本日は女性の方に限定して開催しますので、生活に密着した中津川市全域でのご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

中津川市は平成 27 年 2 月 13 日で合併 10 年。平成の大合併は国策として進められ、これにより当時の市町村は約半数になりました。中津川市は 1 市 7 町村が合併しました。国の財政が厳しく、このままでは全ての市町村に交付金を支払うことができないので、合併を進めて市町村の数を減らしました。合併後 10 年間は国が特別な支援をする、それが前提の大合併でした。

そして今 10 年を迎えようとしています。合併したからには魅力ある中津川のまちをつくらなくてはならない。たくさんの人に遊びにきていただき、地元産業を存在感のあるものにしていかなければならない。それが若い人たちの働く場となる。住んでもらうために、出産からはじまり、子育て、教育、医療、福祉と、働く場や住環境をしっかりと整備できるまちを目指しています。

しかし、財政的にとても厳しい状態です。合併をして同じような施設が市内に 1,700 ほどあり、そのままいくつもの施設を維持していくのは難しいため、それを見直し整理して新しいものを作っていく、マスタープランという計画を立てて進めています。

また、2040 年には多くの都市で 20～39 歳の女性が現在より 50%以上減ってしまい、自治体が消滅するという話が出ており、東濃 5 市でも 3 市がそれに該当しています。中津川市はその 3 市の中に入っていないませんが、48.3%とそれほど変わりません。中津川市は絶対消滅しないぞという思いで、平成 27 年度新しい総合計画をスタートさせます。若い人に住んでもらえるまちにしていきます。皆さんもご協力をお願いします。

また、リニアについて 10 月 27 日に着工が認可されましたが、環境・生活などへの影響も懸念されます。皆さんの不安を払拭することができるよう、丁寧な説明と生活環境への配慮を JR に要望しているところです。リニアを大きな力として活用するよう取り組んでいきます。どうかよろしくお願いいたします。

### 懇談内容（要約）

#### ・〇〇さん

一昨年の 3 月末に県外から引っ越してきました。決め手は中津川の栗きんとん。おいしくて衝撃的でした。あとは自然が豊かで暮らしやすいところです。自然いっぱいのところではいっぱい遊ばせたい、住みたいと思って引っ越してきました。ただ、交通が不便。車がなくて市内

でもとなりの地区に行くことも大変で、その様子もわかりません。

また、私はリニアには反対です。あまり変わらないでいてほしい。開発なども重要ですが、山や里も大事にしてもらいたい。山を散歩したり、子どもが安心して入って遊べるように整えてほしい。

中津川市は子育て支援が充実していますが、産科が少なく選択肢がないので充実してほしい。

#### ・〇〇さん

私も基本的にはリニアは反対。自然環境はいったん狂ってしまうと元に戻せません。財政が厳しく、リニアに期待しているのもわかりませんが、実際にリニアができて企業などの誘致などがうまくいかなかったらどうなるのかも思います。また、濃飛横断自動車道にも反対。緊急時に便利だというのは分かりますが、環境面でも心配。今まで国道を走るついでに地域に寄って行って来ていた人たちが、自動車道ができると通り過ぎてしまうのではと心配しています。

産院の不足についても気になります。自分が子どもを産むとき当初下呂病院に通っていたけれど、医師不足で中津川市民病院に転院となり、困ったことがあります。

また、医療については、医療が破たんした夕張の話を耳にしたことがあり、お金を使わないようにみんなが病気とかに気を付けるようになって病気が減ったと聞いています。そういった予防医療にも力を入れてほしい。

#### 市長

栗きんとんの魅力にひかれ、自然も豊かということでありありがとうございます。

私も中津川市は自然豊かだと思っていますが、〇〇さんが自然豊かと感じるときはどんなときですか？

#### ・〇〇さん

すぐそこに山がある。遠くから見るだけでなく触れることができる。近くの人が柿がとれたからくれるとか、栗がとれたからくれるとか、生活の中で感じられる。そういうところです。

#### 市長

私たちの年代は山に入って生活していました。多治見、土岐や瑞浪には窯があって木が燃料で、釜を炊くための燃料を山に入って調達していました。当時は手入れがしっかりされていてきれいでした。今の山は手が入っていないと怖いと感じます。

また、木が増えすぎると根がぶつかり合って枯れてしまう。南木曾の土石流の現場を見ましたが、周りは杉林と竹藪が多かった。自然の豊かさというのは、自然の脅威と一体となっている。乱開発はダメですが、少し手を入れることによって自然の安全性を守れます。広島土砂災害はまさに乱開発が原因。自然の今までの歴史などその場所がどんな怖さをもっているのか。しっかり裏にあるものを知らなければいけないと思っています。

それはリニアにもつながっていて、リニアではどんな環境破壊があるのか。JRにそれをきちんと教えてほしいと要求しました。濃飛横断自動車道に対する期待もありますが、皆さんが持つ不安を払拭しなければなりません。

併せて中津川市として存続できる街づくりをする必要があります。医療の話をするとなんか今まではお医者さんはきてくれないのも事実。周りの市町村で2つ以上産科があるところはありません。総合病院に複数の産科医がいなくて個人病院も開業できない。何かあった時に受け入れる体制が必要だからです。医師が安心して開業できる状況が必要。今の医療の現状にさまざまな問題があることもご理解ください。

リニアに反対する方の気持ちも理解している。十分な説明をJRに求めて皆さんの不安を減らしていきたいと考えています。

また、日本の平均寿命は世界トップクラスですが、ただ寿命が長いだけでなく、健康寿命が重要。中津川市は平均寿命と健康寿命が15歳ぐらい乖離しており、できるだけ近づけていきたい。皆さんに関心を持ってもらうことが大事で、皆さんの声にお応えすることが行政として重要と思っています。健康で長生きすることは家族にとっても大事なことです。

また、先ほどの濃飛横断道については、通過をされてしまう恐れというのは確かにあります。中津川市としては、通過されるのではなく、最初から目的地として来てもらうことを重視しています。自然の中では、世界でも日本と台湾にしかない温帯性針葉樹林を売り込み、外国人などにも足を運んでもらいたいと考えています。

#### ・〇〇さん

名古屋から引っ越ししてきて19年になります。恵那山が魅力的でした。中津川が生き残っていくためにリニアで人口を増やし企業誘致し、図書館も充実してということで市も努力していると思います。小さい子供たちが読書離れをしているので、若いお母さんたちは子どもたちに本を読み聞かせてあげてほしい。

中津川のいいところは和菓子がおいしいところ。名古屋から来る人もいる。一つの魅力だと思います。お願いとしては、新町の跡地に刈谷のオアシスのような、魅力的な空間を一つぐらい作ってほしい。また、図書館のトイレがきれいになってありがたいことですが、くずかごが古いままなので、付知などの木製のものを置いてほしい。中津川市はひとつということを変えながら、中津川発展のためにリニアにも期待をしています。

#### 市長

私がJA時代に東京のデパートで栗きんとんを販売した際に、いがぐりを置いてみたら全然反応が違い、商品の背景が見えると消費者に喜ばれるというのがわかりました。ここで採れたものなら安心だとか、おいしいとかいったことに必ずつながる。いろんな背景を変えながら和菓子の魅力を発信したい。

図書館はボランティアの方などたくさんの方にご協力いただいて多くの人に来ていただけるようになりました。図書館まつりでは点訳や読み聞かせをしていただくことで目の見えない方にも楽しんでいただけました。

新しい総合計画の中で魅力ある中心市街地についても計画しています。新町の跡地だけでなく駅前からアピタ前の広場、四ツ目川、女夫岩まで一体的に捉えた中心市街地を作りたいと考えているところです。

・〇〇さん

科学館はもっと子どもたちが遊べるようにしていただきたい。

女夫岩のところは犬の散歩禁止になっていますが、犬を連れて行ったりすると、コミュニケーションが取れていいので禁止解除していただけるとうれしい。

**市長**

(女夫岩について) そのことは理解してほしい。

・〇〇さん

蛭川出身ですが、買い物に行くにも図書館にしても恵那に行ってしまう。蛭川の人は、中津川市と合併してよくなったのはゴミ袋が安くなったぐらい。生活圏が恵那なのが寂しい。蛭川みたいな離れたところを中津川に取り込んでいただけるような政策をしてもらいたい。

蛭川も自然とかいいところがたくさんある。少し手を加えていただいて、外から人が来てもらえるようにしてもらいたい。キャンプ場とか、蛭川を活かしたものを考えてほしい。

野菜を作っていますが、周りの人も作っているので、需要がありません。畑のある人が作り、都会から買いに来るといった契約で、需要側もリスクを負った農業をしたい。そんな施策をやしてほしい。市内の方と蛭川が協働でできるような仕組みを。中津川と合併してよかったと思えるような施策をお願いします。

・〇〇さん

東京に住んでいたことがあり、中津川の自然の良さをよく知っている。

中津川独自の歌があればいいと思う。私は長野県出身で長野県には信濃の国という歌があり、県民ならみんな歌えます。長野県民ならどこでもその歌を歌うことで分かり合える。体に染み込んでいくようなもの。そんな自慢できる歌などがあればいいと思います。中津川かるたもあるので、自分たちが自慢できる歌、太鼓、踊りや歌舞伎がある。伸ばせば盛り上がると思う。そういったものを提案したい。

**市長**

合併前はそれぞれの自治体はその地域として何をすべきかと考えて施策を実施しており、地域ごとに特色ある施設がありました。合併した今はこの地域にはあるけどあちらにはない、その逆というものがたくさんあります。それを今すべての地域に同じものをというのは無理です。

蛭川は恵那が近いということはあると思います。しかし蛭川も中津川市の一員です。ぜひ交流していただきたい。蛭川は杵振りなど地域の特色や伝統がしっかりしている地域なので活用していきたい。濃飛横断道の構想の中には蛭川まで行く道もお願いしもしているのでぜひ協力をお願いします。

野菜については産直と契約していただくのが良いと思います。中津川市は産直が多い。どこで売のかとか決めかねると思いますが、農政担当と話していただければ協力できます。

また、現在中津川ふるさと応援隊という方々を募集しているが、その方々に中津川市といえばと聞いてみたところ、「だちかんぞ」という言葉が中津川市を表す言葉だと言われたのが印象的でした。中津川市を自慢できるものが欲しいなと私も欲しいと思っています。中津川市は色々

な良いものありますが、どうしてもまだ膨らませきれないところがある。ぜひ皆さんのお力をお貸しください。

・〇〇さん

栗きんとん屋さんをやっています。先ほど中津川といえば栗きんとんということばを聞いて力が湧きました。今食べ歩きをしている人がたくさんいますが、地図がなくてネットを頼りにきていました。食べ歩きマップを作るといいのではと思います。先日、お客さんから食べ歩きして一番おいしかったと聞いてうれしかった。作る側としてそういうのもうれしい。中津川といえば栗きんとんというのがメジャーになっているのでそういった施策を。また、いももちが今全国で話題になっているので、発信していけたら良いなと思っています。

アートピアはとても環境のいいところで、いい施設ですが、施設使用料や飲食、販売などの制限が多いのもっと使いやすいようになるといいと思います。

**市長**

和菓子は栗きんとんの食べ比べ、食べ歩きが人気で、合併の相乗効果ともいえるかもしれませんね。

JR のカレンダーに付知峡が使われており、とても素晴らしい風景の写真です。そういった誇れるものもあります。今人気のあるところは、行くのに苦勞するところだったりします。そこにおいしいものがあれば旅行者にも喜ばれる。勉強して組み立てをしていきたいと思えます。

イオンで「西方いも」がとても人気なので、農家の方にも頑張ってもらいたい。

アートピアの件ですが、お話いただいた状況には理由があるはずなので確認をしておきます。活用はどんどんしていただきたい。

・〇〇さん

暮らしやすい街ということで、外から見てこんなところで子育てしたいなと思っていくことと、もともと市民だけれども、子育てしたいと思えるところを。

35 人のクラスで参観日の懇談会で 10 人しか参加しなかったとかよく聞きますが、本当にさびしいことだと思います。子育てについてせつかく話ができる機会なので参加ができる状況を作してほしい。サービスも重要ですが、そういうのも大事で、人とのつながりが稀薄になってしまいます。高校の懇談会の出席率は 90%以上でしたが、それは就職を控え、子どもの未来に興味があるから。そういった施策をしてほしい。

・〇〇さん

UI ターン住宅に入居しています。坂下出身、転勤で春日井市に住んでいましたが、環境は整っていても人とのつながりがなく、子育てしたくないと思いました。自分が思い描いている自然の中で子どもを育てたい、両親の近くで住みたいと川上に移り住みました。心から地域の人に大事にしてもらっていると感じています。5年で資金を貯めるルールですが、増税、保育園入園と支出が増えてきて大変です。今の環境に満足していますが、どうにかして出なければと追い詰められていきます。このまま地域ぐるみで子育てできるところに住みたい。今まで皆

さんはきちんと5年で出ていっているかもしれませんが、子育て世代には厳しいです。5年で家を建ててといわれてもできないという要望も強いことをお伝えしたい。

## 市長

3年前に鍵を渡しましたが、他のUIターン住宅は同じ契約で入居した方が5年を迎えた方もあります。すべての方が納得して契約書を作っています。1年だけの延長はありますが、基本的には5年間というルールなので、地域の方の協力なくして土地も見つかりませんが、定住推進部へも相談をしてください。

参観日の親の出席については私がここで言及できないが、出席するから子どもに興味があつて、しないから興味がないというのにつながるとは思いません。出席したいのにできない人もいます。お話は教育委員会には伝えさせていただきたいと思います。

## 市長あいさつ

中津川市が合併して10年、財政的に厳しい中で、国策による合併でした。10年経ったこれからも、中津川市を元気なまちにしていくことが施策の根幹です。継続していけるまちでなければ医師も来てくれません。バランスの取れたまち、元気なまち、労働生産性、人づくりのしっかりできるまちにしていきたいと思えます。

産業面だけ、歴史だけ、観光だけでなく、全部そろっての中津川市でなければなりません。また、中津川市は岐阜県にあるが、長野県との境にあります。隣の町、南木曾町への支援も県と県を挟まないといけないという行政の仕組みがあります。これを越えるために協定を結んでいきます。

皆さんの協力があつてのことですので、中津川市のこれからのまちづくりにぜひお力を貸していただきたいと思います。お願いいたします。